

例年よりも梅雨明けが遅かった東京ですが、明けてすぐに行った夕方の畑は既にトンボが飛び、ひぐらしまで鳴いていました。空も風も若干秋を感じさせるものでしたが、その後の酷暑はここ数年の変わらぬ暑さを思い出させてくれました。お盆が明けて立秋。夕方の虫の音はすっかり秋です。

義を見てせざるは勇なきなり

6月末に神田ずらん館を閉館してから、それに引きずられるかのように様々な苦難に見舞われたこの夏。珍しく眠れない夜もありました。そんな折、尊敬する大経営者である稲森和夫さんの新刊『心。』を拝読し、次の一節を目にして納得しました。「いかなる災難もそれを引き寄せる心があるからこそ起こってくる。自分の心が呼ばない

ものは、何ひとつ近づいてくることはない。」ああ、確かにそうだと思います。すべては「心」が作り出しています。稲盛さんといえば、経営破綻したJALを再建させたことが記憶に新しいですが、畑違いの業界でなぜこのような偉業を成し遂げられたのか。また、なぜこの依頼を引き受けることができたのか。ずっと疑問に思っていましたが、その

答えはこの本に書いてありました。稲森さんはJALの再建に、日本の経済再生のため、社員の生活ため、国民の利便性ため、という3つの社会的意義を見出したそうです。この大きな意義を見出した瞬間、「義を見てせざるは勇なきなり」という心で決断したのです。我社の「義」はどこにあるのか。改めて問い直しています。(太)

オンライン道場を開設しました。

サムライアーティストとしての私を支持して下さる方々からの要望もあり、兼ねてより構想していたオンライン道場を開設致しました。オープンしてすぐに国外からも入会があり、国や人種に関係なくサービス提供を行うダイナミズムに新鮮さを感じています。これまでも流儀流派を掲げずに活動して参りましたが、活動方針(テーマ)はあります。オンライン道場開設に際し、今回新たに「真剣武士道」というテーマを掲げました。知識として語られることが多く抽象的な議論に終始しがちな武士道論に終止符を打つべく、武術の実践体系を取り入れ、経験的、体験的に武士道を習得できるようにした一種のプログラムです。このプログラムをオンラインで提供し実践を通じて身体化することを目的としています。世界中のトップリーダーが目撃し積極的に学んでいる武士道。当社は、今期心新たに「武士道を重んじた経営者支援事業」を掲げており、全社的に事業推進しております。是非新しくなったWEBサイトを御覧ください。(太)

ようこそ^{たじんでい}太仁亭へ!

この夏の畑は、トマトとバターナッツ(かぼちゃ)がメインとなりました。トマトは大玉・中玉・ミニの3種類。オクラは、種を3回蒔いても芽が出なかったので諦めました。また、思いがけずゴーヤがベランダで芽を出したので畑に植え付けました。このゴーヤは、昨年ベランダで育てたゴーヤから種を採ったものです。そして、昨年買っておいたバターナッツの種も蒔きました。

この中で、私が一番育てたくて期待していたものは、オクラと大玉トマトです。けれど、意に反して旺盛に育ったのが中玉トマトとミニトマトとバターナッツ。そして、この

バターナッツの勢いが驚くほど旺盛で、畑に行く度に「おっ」と歓声を上げてしまうほど。今も現在進行形でぐんぐんと蔓を伸ばし、畑道を超えて両隣の畑に侵食しています。つぼみも花も行く度に新しいものが数多く確認でき、蔓を少し避けると大きく実った美しいバターナッツの実が現れます。未熟果はズッキーニと同じように食べられるとあったので、ラタトゥイユ等で楽しみましたが、いよいよ完熟の時期を迎えております。お豆ちゃんの大好物であるカボチャポタージュを思う存分楽しめる季節がやって来ました。(仁)

日本刀から生まれた言葉達-5「身から出た錆」

刀の錆が刀身から生じることから、自らの悪い行いによって自らが苦しむことを言います。前述の稲盛式に言えば、全ては「心」が決めていることですから、心に何を描き、どんな思いを持ち、どんな姿勢で

生きるのか。現実とは心が投影した真実だと言います。つまり、濁った心は濁った現実を投影し、澄んだ清い心は素晴らしい現実を投影します。全ては心次第。肝に命じて清く正しく生きていきます。(太)

今月のお豆ちゃん

1年振りに里山探検隊に参加しました。今回はディキャンプ。火を起こして焼きそばを作り、湧き水の小川で水遊びや虫の観察に勤しみ、自家製梅ジュースで喉を潤し...それだけでも大興奮だったので、少し年上のお姉さん達が太い棒をクルクル回して、バウムクーヘンを焼いてくれたのです。焼きたてのバウムクーヘン...お豆ちゃんにとって甘くて美味しくて幸せ過ぎる夏の日となりました。(仁)



セミ

梅雨明けが遅かったせいか、今年はセミの抜け殻をあまり見ないと思っていたのですが、少しするとそこかしこに沢山見られるようになりました。そして、冒頭にも記載したようにあらゆるセミの鳴き声が混在しています。ラジオでは「今年のセミはおかしい」との投稿もあり、短い夏を危惧して生き急いでいるのかのようなその激しい鳴き声に異変を感じる方も多いようです。短かった今年の夏がもうすぐ終わります。(仁)

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日：2019.8.19 立秋(りっしゅう)

蒙霧升降(ふかききりまとう)

発行所：株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木2-63-10

TEL/FAX 042-697-7473

https://ccore.co.jp/

過去号：ウェブサイト1からご覧頂けます。